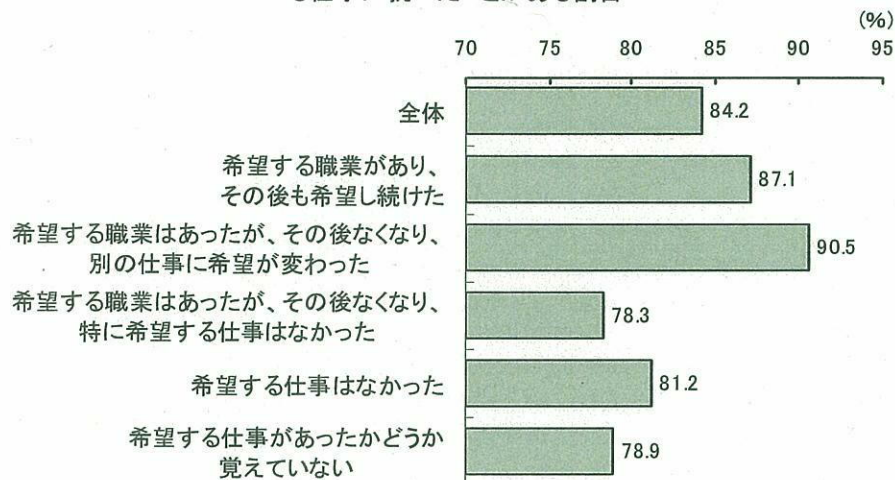
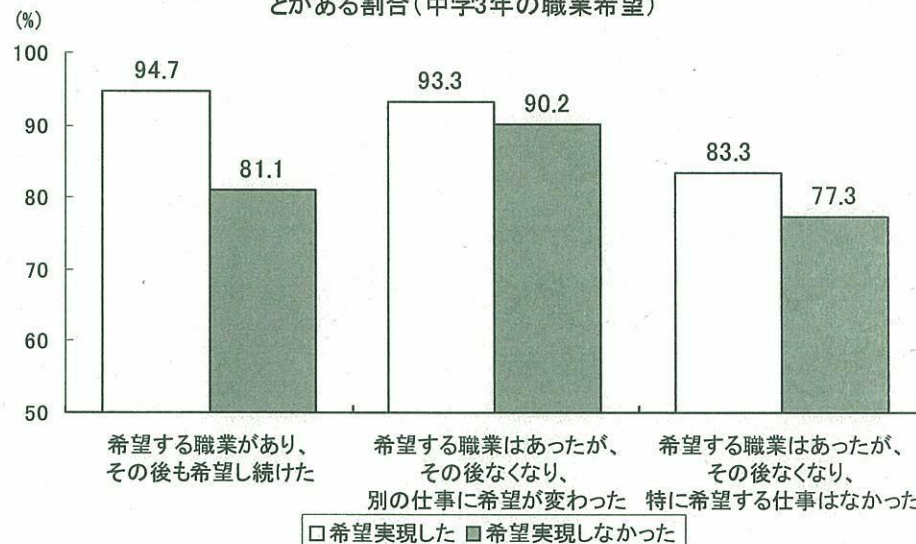


○ 希望の変遷状況と「やりがいのある仕事」の就労状況をみると、同じ希望を  
持ち続けた人たちよりも、希望を途中で修正してきた人たちの方が高い。

中学3年のときの職業希望の変遷状況別にみた、やりがいのある仕事に就いたことがある割合



希望の変遷と実現状況別にみた、やりがいのある仕事に就いたことがある割合(中学3年の職業希望)



図表) 東京大学社会科学研究所「職業の希望に関するアンケート調査」(2005年5月)

- ・ 20代から40代の就業者を調べると、小中学生の頃には、6割から7割が「なりたい職業」を具体的に持っていた。しかしそんな希望の仕事を実現しているのは、1割前後の限られた人々である。
- ・ 深刻さを増す就業環境であるが、仕事内容の違いを超えて、8割もしくはそれ以上の人々が、仕事にやりがいを感じた経験を持っている。そんなやりがいに出会っている人には、小さい頃に具体的な職業希望を持っている人が多い。
- ・ ただし、希望をかたくなに持ち続けた人よりも、修正を施してきた人のほうが、仕事上のやりがいを感じる人がより多い。希望は多くは失望につながるが、その挫折経験のなかにこそ、自分に適した仕事が発見できるチャンスがある。

＜東京大学 玄田有史 教授 「働く過剰～大人のための若者読本」＞119頁より引用